



センターWebページへ

トップ

研修講座の状況

講座紹介・受講者の声

センター研究成果

ハイライト:

今年度もたくさんの講座を実施しておりますが、本号では、「今年度の注目講座!」「講座紹介・受講者の声」を紹介しています。まだ追加申込み可能な講座もありますので、多くの方の申込みをお待ちしております。

目次:

研修講座の状況	2
今年度の注目講座!	2
講座紹介・受講者の声	3
センター研究成果	4
ライブラリ紹介	4

青森県総合学校教育センター

センターだより

巻頭言 「研修でリフレッシュ」

当センターの研修もいよいよ佳境に入ってきました。1日のうちにいくつもの講座が重なって開講されており、お昼休みの食堂やロビーはたくさんの先生方でいっぱいになります。今年度は、204講座を開設し、受講申込者総数は5700人にも上ります。一方で、学校は恒常的に多忙を極めていきます。授業の持ち時間数も多く、研修のため学校を空ければ同僚の先生方に、そして学級の子どもたちに迷惑がかかるからと、研修意欲に蓋をせざるを得ない先生方も少なくないのではと考えています。

しかし、たとえ1日や2日学校を空けても、研修で得たものが明日からの授業に、そして子どもたちの指導に還元できるのであれば、それは長い目で見れば、子どもたちの為であり、保護者や地域から信頼を寄せられる学校づくりに貢献することにもなり、引いては留守の間替わりを務めてくださった同僚の先生方へのお返しにもなります。時には充電も、そして気分転換も必要です。

センターでは、講座の評価とともに次年度の講座構築に資するため、講座終了時に「受講者アンケート」を実施し、貴重なご意見を頂戴しています。ここにご紹介するのは、ほんの一部ですが、いずれも私たちセンター職員を励ましてくださるだけでなく、前述のような理由で受講を躊躇っている先生方の研修意欲を後押ししてくれるものばかりです。

- 日々の疑問点が解決できました。学校に戻って取り組んでみたいことが、たくさん得られました。
- 大変充実した時間を過ごさせてもらいました。
- 自身の実践について悩んでいた時期だったので、この講座はタイムリーでした。
- 教職をある程度経験した今、こうして勉強することは、教師としての自分のあり方を見つめ直すことができる大変よい機会でした。
- 粕谷先生（東京学芸大学准教授）の講義は、これまでの外国語活動（教育）の観念を覆すものでした。明日から楽しんで外国語活動をやれそうな勇気をもらいました。

他に、「実践発表や協議が大変有意義だったので、日程的にもう少し時間がほしかった」とか、「学校行事や出張が続く時期の講座開催は一考できないか」、「パワーポイントのコピー（印刷物）がほしかった」など、講座の運営上大変参考になるご意見もありました。

また、先生方に記入していただいたアンケートを読み進める中で、先日こんな添え書きが目にとまりました。「・・・私事ですが、子どもが発熱のため数日間入院し病院に付き添っていたため、睡眠不足で、時々ぼーっとしてしまいました。受講者として、気を引き締めなければならないと深く反省しております。・・・」お書きになった先生の真摯な姿勢が感じられ、思わず心打たれる一文でした。お子さんが成長して、この文に触れる機会があるならば、我が子の病を気に掛けながらも、懸命の思いで研修を受け続けた母親をきっと誇りに思うことでしょうか。日々の業務の中で、ふっと心が和み充実感に浸れるのは、先生方のアンケートを読むこのようなひとときです。



青森県総合学校教育センター
副所長 小野崎 龍一

トップ

研修講座の状況

講座紹介・受講者の声

センター研究成果

【今年度の注目講座と
講座紹介について】
センターの研修を身近に
感じてもらい、受講の参考
としてもらうために、実際
の講座の様子を講座担当
者が紹介します。

平成22年度 研修講座の状況

【平成22年度研修講座】

当センターでは、青森県教職員研修体系に基づき、教職員の専門性を高め、教育活動の充実に資する各種の研修を行っています。研修は、「初任者・新規採用者」・「経験者」・「職務」・「教科」・「教科外」・「特別」と体系化して構築しており、今年度の全講座数は204となっています。

研修講座の編成に当たっては、

- ①教育要領・学習指導要領の趣旨・内容
 - ②学校が直面している教育課題への対応
 - ③「教育の情報化」に対応した内容
 - ④「指導と評価の一体化」についての内容
 - ⑤「個に応じた指導」「特別の支援を必要とする子どもの教育」についての内容
 - ⑥「校種間の接続」に関する内容
- を取り入れることを重点とし、講座内容の評価・見直しを図り、受講者のニーズとライフステージに合わせた研修講座を目指しています。

【平成22年度研修講座申込状況】(延べ数)

研修体系	講座数	申込者数
基本研修	61	2474
初任者研修	34	1522
新規採用者研修	11	78
教職経験5年研修	7	187
10年経験者研修	9	687
職務研修	17	768
専門研修	121	2429
教科研修	58	835
教科外研修	63	1594
特別研修	5	34
合計	204	5705

【追加申込みについて】

「職務研修」・「専門研修(教科)(教科外)」において、講座開始日の1か月前まで追加申込みを受け付けています。希望する講座があれば、講座担当者まで、まずは電話連絡をお願いします。なお、追加申込みを受け付けている講座は、当センターのWebページの「追加申込み可能な講座」に掲載しています。

今年度の注目講座！

講座番号509 社会福祉に関する教育講座

高齢化が進むのに伴い、介護分野における多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材の育成が求められています。そのため、子どもたちが福祉について理解を深めるための教員の指導力向上を目指します。

1日目は青森県立保健大学准教授の増山道康氏から、講義・演習を通して福祉教育において大切なコミュニケーションの基本などを学びます。2日目は高齢者総合福祉施設「清風荘」の長根祐子施設長より、「特色ある施設運営」・「施設と教育機関との交流」・「職員研修制度」・「ボランティア事業」など、施設で取り組まれている内容について講義していただきます。さらにその施設で従事している介護福祉士さんから、福祉現場において求められる人材について生の声を伺います。

福祉の現場における現状と課題、福祉専門職養成機関(教育の場)と福祉施設(働く場)について、講義と演習を通して理解を深めます。福祉に興味のある方、まだ定員に余裕がありますので、是非、受講してみませんか？

講座番号705 発達障害児研修講座

平成19年4月に全ての学校・学級における特別支援教育がスタートしてから早3年が過ぎました。それぞれの学校において、発達障害児に対する理解が進むと同時に、まだまだ対応に悩むケースもあるというのが現状ではないでしょうか。本講座では、1日目は発達障害の基本的事項の説明、受講される先生方の抱えるケースに対する協議を行い、よりよい支援策を探ります。2日目は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育情報センターの主任研究員海津亜希子氏から「LDの幼児児童生徒の理解と支援方法について」というテーマでお話していただきます。海津氏はLDI-Rの開発、発達障害児のアセスメント、個別の指導計画に関する著書等や発達障害の様相を呈する子どもの在籍する学校へのコンサルテーションの経験も多く、LDに関する一般的事項から実践的な内容まで最先端のお話をしていただけたと思います。

「講座番号504 キャリア教育研修講座」6/7~6/8開催

この講座は、「それぞれの生徒が直面するであろう様々な課題に対し、柔軟にかつ逞しく対応でき、また社会人・職業人として自立できるキャリア教育とは何かを理解する」こと、「児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を推進する能力の向上を図る」ことを目的としています。以下の4つの内容を中心に講座が進められました。

- ①千葉商科大学教授 鹿嶋研之助氏の講義 「児童生徒の発達段階を踏まえたキャリア教育」と「キャリアカウンセリングの実際」
- ②KJ法を使いながら、小・中・高・特支と校種を越えて、12年間を見通したキャリア教育の現状と課題についての協議
- ③十和田市立法奥小学校 野坂佳孝先生、弘前市立北辰中学校 川畑 円先生、県立尾上総合高等学校 阿部正行先生の実践発表
- ④校種別に分かれて、自校のキャリア教育の全体計画・年間指導計画の見直し

◆受講者の声

- ・講義は、キャリア教育推進の手引の作成にかかわった鹿嶋先生でしたので、今日に至るまでのキャリア教育の動向がわかり勉強になりました。
- ・キャリア教育の歴史や諸外国での取り組みについて知ることができました。また各学校で行われている実践発表から、地域の人とのかかわり、体験活動、教科との関連性が大切であることを感じることができました。
- ・小中高と12年間を見通したキャリア教育、という視点が大変よかったですと思います。校種は違っても、実践発表を参考に取り入れていけると思いました。また、2日目は自他の学校における悩みや課題についての協議があり、今後の参考とすることができました。

「講座番号703 教材・教具（特別支援教育）活用講座」7/1~7/2開催

本講座は、1日目に香川大学教授の武藏博文氏から「子どもが分かって動ける生活支援ツールの作成と活用の実際」について講義をしていただき、支援の基本をしっかり押さえた上で、2日目は県立森田養護学校の阿部文俊先生を講師に、身近にある素材を活用した教材・教具を製作するという構成になっています。

2日目の実習では、防犯ベルや玄関チャイムを解体し、スイッチ教材を製作しました。日頃手にするものの少ないハンダごてや電気ドリルに悪戦苦闘しつつも、線がうまくつながり「ピンポン」と音が出ると、子どものような歓声が上がっていました。

◆受講者の声

- ・児童生徒が学校を卒業した後も、達成感や効力感を持ち続けた生活を支えるツールを作成したいと思いました。そのためにも、多様な評価を心がけ、児童生徒自身が認められていることを自覚できるような支援に努めたいと思いました。
- ・これまで教材づくりというと、何か手の込んだものや大型のものばかりを考えていましたが、身近なものであっても使い方を工夫することで活用できるのだというを確認できました。
- ・スイッチ教材の製作には、苦勞しましたが、講師の先生や同じ班の先生方が、必要な時に必要なアドバイスをしてくれて、とても助かりました。なかなかできずに困っている子どもの気持ちを再確認することができたとともに、自分がどのようにかかわればよいのかを実感することができました。

また、当センターWebページでは、今年度実施した講座の様子を随時紹介しています。そちらも是非御覧ください。

トップ

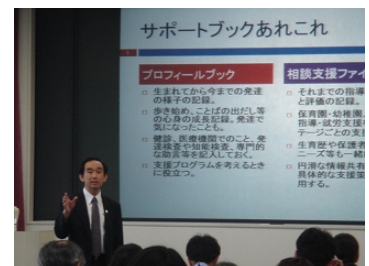
研修講座の状況

講座紹介・受講者の声

センター研究成果



講座番号504 キャリア教育の現状と課題についての協議



講座番号703 香川大学教授 武藏博文先生の講義の様子



講座番号703 教材・教具の製作の様子

平成21年度のセンター研究の中から、学校教育で参考となる主な研究について、それぞれ研究の主題及び要旨を紹介します。

◆義務教育課

<主題>

地理的分野における世界各地との時差の定着に関する研究
 —他教科との関連を図る学習活動—

<要旨>

本研究は、中学校社会科地理的分野における世界各地との時差に関して、本県において実施された県立高等学校入学者選抜学力検査（社会）及び学習状況調査（中学校第2学年社会）の結果を分析することで、生徒のつまづきの原因を探り、平成24年度の学習指導要領全面实施に向けた授業改善の方法を提案するものである。

◆教育相談課

<主題>

実践的な指導力向上に結びつく校内研修(生徒指導)の在り方
 —学校現場のニーズに応じた校内研修への支援—

<要旨>

本研究は各学校における生徒指導に関する校内研修を、児童生徒に実際に活用する等、より実効性のあるものにするために、当センターの指導主事が実際に学校へ出向いて研修を行うことの有効性について検証し、学校をどのように支援していけばよいのかを明らかにしようとするものである。検証方法は校内研修の参加者にアンケート調査をし、統計処理しておこなった。その結果、受講者にはWebシステムの目的、内容が十分理解され、研修に対する興味と申込みの意欲を喚起できたこと、他に、講義内容に十分満足していただいたことが分かった。

ライブラリ紹介

—新着情報—

今年度第1次購入分の新着図書の一部をご紹介します。新着図書の一覧とセンターが所有する平成21年度の教育資料（各研究機関・大学等の研究紀要等）の目録は、センターWebページ「お知らせ」からご覧いただけます。またライブラリでは、情報をより検索しやすくし、サービスを向上させるため、今年度より図書管理システム「りいぶる」を導入しました。**図書の貸出には利用者カード**が必要となりますので、来室の際にライブラリ担当までお申し出ください。

- トップ
- 研修講座の状況
- 講座紹介・受講者の声
- センター研究成果

書名	編著者	発行・出版社
新しい教育課程における言語活動の充実	学校教育研究所	学校図書
各教科等における「言語活動の充実」とは何か —カリキュラム・マネジメントに位置付けたリテラシーの育成—	横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校	三省堂
各教科等における言語活動の充実 —その方策と実践事例—	高木展郎	教育開発研究所
キャリア教育体験活動事例集	国立教育政策研究所生徒指導研究センター	実業之日本社
キャリア教育ガイドブック —学校と企業・地域をつなぐキャリア教育コーディネーター—	経済産業省	学事出版
特別支援教育×キャリア教育 —インターンシップ・就労支援はここまで変わる—	石塚謙二	東洋館出版社
事例で読む生き方を支える進路相談 —教師だからできるキャリアカウンセリング—	飯野哲朗	図書文化社
特別支援教育Q&A支援の視点と実際	全国特別支援学校知的障害教育校長会編著	ジース教育新書社
八戸発2 単元構成の工夫で活用力を育てる —身につけさせたい力と学習材の選択—	白石 範孝	東洋館出版社
世界の子どもとケータイ・コミュニケーション —5カ国比較調査—	モバイル社会研究所	NTT出版



図書管理システム「りいぶる」

編集後記

当センターでの勤務は3年目になるが、今年度初めて講座を新設した。「システム管理者養成講座」という名称で、県立学校の先生方を対象とした講座である。内容としては、校内におけるネットワークシステムの管理者として、果たすべき役割を網羅したものであるが、テキストの作成から実習環境の構築までかなりの時間と労力を費やした。常に不安と焦りを抱えながら準備にあたっていたが、挫けそうになると決まって受講者の顔が浮かんでくる。学校現場の忙しい合間を縫って、受講を申込みされている先生方にとって有益な講座にしなければならぬと気持ちが徐々に高ぶってくる。そのような繰り返しで何とか講座の開講まで漕ぎ着けた次第である。これからも受講者を大切にする気持ちを忘れず、教科指導、校務に直接活用できる講座構築に努めていきたいと考えている。
 （広報委員 須藤貴則）